

## 平成30年度 年間努力目標

年間スローガン	プロとしての誇り・責任を持ち、みんなの安全・安心守ります。	
	月間努力目標	指導ポイント
4月	社会的使命と安全・安心	周囲の状況を確認し事故防止 子ども・高齢者の保護
5月	交差点での事故防止	危険を予測して、減速、徐行、一旦停止 歩行者と二輪車の安全確保
6月	車両構造に応じた運転	オーバーハング・内輪差を考慮した運転 車両の死角を再確認
7月	車内事故防止の徹底	着席確認の徹底 車内マイクの活用
8月	健康起因事故の防止	健康管理マニュアルの活用 健全な生活習慣
9月	飲酒運転の撲滅	社会的責任の自覚 飲酒が身体に与える影響を再確認
10月	扉事故の防止	扉操作は必ずミラーと目視で車内・車外の安全確認 完全停車後の開扉、完全閉扉後の発車
11月	運行路線・経路の把握と安全確保	運行表・運行指示書の再確認 慣れた道こそ慎重に
12月	気焦り運転の排除	回復運転の禁止「気焦り運転が危険を見落とす」 技術・知識・経験を心でコントロール
1月	スリップ事故の防止	道路状況に応じた運転 冬道タイヤ・タイヤチェーン・運転技術を過信しない
2月	危険予知・予測及び防衛運転の励行	道路を利用する者の行動特性の理解 ヒヤリ・ハットの報告、共有
3月	運転適性の自覚	適性診断結果を把握する 過労運転の防止

### 大地震発生時の措置

- (1) ハンドルをしっかりと握り、急ハンドル・急ブレーキを避け、左に寄せ停車。
- (2) ラジオ等で地震情報・交通情報を聞く。
- (3) 避難の際はキーをつけたままで、窓を閉め、扉はロックしない。
- (4) 避難経路は日頃からよく掴んでおき、乗客を安全な場所に誘導する。
- (5) 速やかに最寄りの営業所へ連絡を入れ、指示を受ける。

### バスジャック・テロ時の措置

- (1) 乗客の安全確保を最優先する。
- (2) 運行の安全確保に最善をつくす。
- (3) 乗客及び運行の安全を確保するため、原則として、犯人の要求に従って行動する。
- (4) ハザードランプの点灯継続、あわせてパッシングを繰り返す。
- (5) 連絡が取れる状況であれば外部(110番、会社)へ連絡する。

### 梅雨期安全運転6則

- (1) 点呼指示をよく聞き、確かめ、必ず実行しよう。
- (2) ガラスの曇りは、止まって拭き取り、視野の確保に努めよう。
- (3) 速度は控え目に、車間距離は十分確保しよう。
- (4) 路肩寄りの走行は絶対避けよう。
- (5) 無理な追越し・すれ違いを避け、「危ない」と思ったら、まず止まれ。
- (6) 歩行者・他車の動静に注意し、灯火・警音器を活用しよう。

### 夏期安全運転5則

- (1) 暴飲暴食を避け、寝る環境を整え体調をベストに保とう。
- (2) 「危険」と予測して、急停車を避けよう。
- (3) 歩行者・自転車・バイクと十分に間隔を取り、一時停止・徐行を励行しよう。
- (4) 完全に止まって開扉・安全を確かめて閉扉しよう。
- (5) 「考えごと」や「居眠り運転」を絶対しないよう運転に集中しよう。

### 行楽期安全運転5則

- (1) 安全速度を遵守し、「まず止まれ」を励行しよう。
- (2) 歩行者・自転車への接近に注意し、一旦停止・徐行を励行しよう。
- (3) 完全に止まって開扉・安全を確かめて閉扉しよう。
- (4) 踏切は、直前停止で安全確認、無理な進入・すれ違いは絶対避けよう。
- (5) 「考えごと」や「脇見運転」は絶対に排除しよう。

### 冬期(積雪・凍結)安全運転6則

- (1) 急発進・急ハンドル・急ブレーキは絶対避けよう。
- (2) タイヤチェーンの「着」は早めに、「脱」は遅めにしよう。
- (3) 危険を予測し、減速・徐行を励行しよう。
- (4) 状況に対応して、エンブレ・排気ブレーキを十分活用しよう。
- (5) 路肩寄りの走行は絶対避けよう。
- (6) 車間距離は十分確保しよう。

### 高速道路安全運転6則

- (1) 安全速度で十分な車間距離を確保する。
- (2) シートベルトの着用をお客様へ促す。
- (3) トンネル・下り坂は必ず減速する。
- (4) 進路変更・車線変更は安全を確かめ、早めに合図する。
- (5) 交通標識・情報板を確認し、適切に対応する。
- (6) 非常時には、ハザード、停止板、発煙筒、非常電話による通報を行い、  
旅客避難を必ず行う。